

①評価領域	総務部
-------	-----

②重点目標	1 儀式・行事を含めて通常業務を着実に遂行する。 2 PTA活動を通して保護者に学校のことをよく理解してもらおう。	前年度3月作成				
③現 状	1 分掌の枠を超えて協力してもらい、各儀式や行事の運営は円滑に行われている。 2 学校規模に合わせて、PTAの規模や活動の見直しを行っている。 3 保護者への連絡で「すぐーる」の活用を図った。					
④具体的な目標	1 各儀式や行事を、それぞれの趣旨に沿った意義深いものにする。 2 PTAに関連した会議や活動のあり方を見直し、保護者が参加しやすいものとする。 3 保護者連絡システム「すぐーる」を活用して、保護者への連絡が行き届くようにする。					
⑤目標達成のための方策	1 生徒数の減少にあわせて、入学式・卒業式の準備の仕方を工夫する。 2 PTA総会と学年PTAの同日開催に取り組む。 3 「すぐーる」による保護者への連絡や行事の周知を図る。					
⑥具体的な取り組み状況	・入学式、始業式、終業式等の運営 ・PTA・部活動後援会理事会の開催 ・「一声あいさつ運動」の実施 ・同窓会三役会および同総会総会の開催 ・学校要覧の作成 ・奨学金関係業務の遂行 ・避難訓練の実施 ・PTA会報の発行 ・スクールバス関係の連絡調整 ・「校務規程」の改正	8月までの達成状況や評価				
⑦達成状況	各儀式・行事はほぼ予定どおり実施された。教職員協力の下、各種の通常業務も滞りなく遂行された。森山登山PTA補助活動として保護者にも登山を呼びかけ、2名が参加した。PTA役員会では、今年度からのPTA総会と学年PTAの同日開催により、PTA会合の効率化および参加者増に繋がった。					
⑧自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">(評価)</td> <td style="text-align: center;">(根拠)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>入学式・卒業式の簡素化については、まだ検討段階である。PTA総会と学年PTAの同日開催により、保護者の参加が増加した。また、「すぐーる」は保護者への連絡や出欠確認のために十分活用できている。</td> </tr> </table>		(評価)	(根拠)	B	入学式・卒業式の簡素化については、まだ検討段階である。PTA総会と学年PTAの同日開催により、保護者の参加が増加した。また、「すぐーる」は保護者への連絡や出欠確認のために十分活用できている。
(評価)	(根拠)					
B	入学式・卒業式の簡素化については、まだ検討段階である。PTA総会と学年PTAの同日開催により、保護者の参加が増加した。また、「すぐーる」は保護者への連絡や出欠確認のために十分活用できている。					
自己評価に基づいた改善策	準備等を含めた入学式・卒業式のあり方について、他の分掌や管理職と話し合いながら、可能な範囲で進めていきたい。					
⑨具体的な取り組み状況	・卒業式準備における時間の確保 ・五高防災デー・防災講話の実施 ・フォトニュース、PTA会報、同窓会報の発行 ・同窓会との連携 ・奨学金等の事務運営 ・スクールバス関係の連絡調整 ・生徒手帳の改訂 ・五城目町広報への寄稿 ・保護者連絡システム「すぐーる」によるPTA関係の連絡	年度末までの達成状況や評価				
⑩達成状況	入学式・卒業式の準備等については、職員の協力を得ながら実施する予定である。また、フォトニュースの町内全世帯への配布や町広報への寄稿を通して、地域連携を形にすることができている。「すぐーる」に関しては、保護者への確実な情報伝達のために活用できている。					
⑪自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">(評価)</td> <td style="text-align: center;">(根拠)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>今年度からPTA総会と学年PTAを平日において同日開催することになったため、4月はその準備などで多忙化であった。各種行事の集中開催の是非について引き続き検証していく必要がある。</td> </tr> </table>		(評価)	(根拠)	B	今年度からPTA総会と学年PTAを平日において同日開催することになったため、4月はその準備などで多忙化であった。各種行事の集中開催の是非について引き続き検証していく必要がある。
(評価)	(根拠)					
B	今年度からPTA総会と学年PTAを平日において同日開催することになったため、4月はその準備などで多忙化であった。各種行事の集中開催の是非について引き続き検証していく必要がある。					
⑫学校関係者評価と意見	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">(評価)</td> <td style="text-align: center;">(意見)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>五城目町広報の掲載による全町への情報発信、PTA等への学校活動の発信が評価できる。一方、保護者の一定数から情報提供不足の回答があり今後「すぐーる」等の活用について検討してほしい。また、入学式、卒業式の在り方などは時間をかけて検討を。今後も地域・家庭との連携を重視してほしい。</td> </tr> </table>	(評価)	(意見)	A	五城目町広報の掲載による全町への情報発信、PTA等への学校活動の発信が評価できる。一方、保護者の一定数から情報提供不足の回答があり今後「すぐーる」等の活用について検討してほしい。また、入学式、卒業式の在り方などは時間をかけて検討を。今後も地域・家庭との連携を重視してほしい。	
(評価)	(意見)					
A	五城目町広報の掲載による全町への情報発信、PTA等への学校活動の発信が評価できる。一方、保護者の一定数から情報提供不足の回答があり今後「すぐーる」等の活用について検討してほしい。また、入学式、卒業式の在り方などは時間をかけて検討を。今後も地域・家庭との連携を重視してほしい。					
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	生徒数の減少や保護者負担という現状を踏まえて、ここ数年でPTA行事については整理・統合を行っている。また、卒業式などの儀式についても準備等の簡素化が求められたため、可能な限りそうした取り組みを行ってきた。学校存続のためにも、今後も地域や家庭との連携を深めるよう努力していきたい。	教頭記入 主任記入				

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	基礎学力の定着と向上を図る。 思考力を育む授業改善を図る。		前年度3月作成
③現 状	学習に対し苦手意識をもっていたり、中学校段階の基礎・基本の学習内容が定着していなかったりする生徒がおり、高校での学習へとスムーズに移行できていない生徒もいる。五高ベーシック、コース制、朝学習、協働的な学習等の取り組みを通じて、一人一人の学習意欲向上を図りながら、主体的な学習姿勢を育む必要がある。また、基礎学力定着だけでなく学力伸長のためには思考力も育む必要がある。		
④具体的な目標	1 自立に向かうための基礎・基本の指導を徹底し、分かる喜びや楽しさを体験させながら、自発的な学習態度を育成する。 2 問いや課題に根気強く立ち向かい、他者と協力しながらよりよく解決しようとする姿勢を育む。 3 学習習慣を身に付けさせ、自ら学び続ける生徒を育てる。		
⑤目標達成のための方策	1 五高ベーシックや習熟度少人数学習、コース制の効率的な在り方を検討し、学力各層に配慮した分かる授業を実践し、生徒の自己肯定感を高める。 2 協働的な学習を積極的に取り入れ、思考の過程を自らの言葉で説明させ、その見方や考え方を共有しながら、それぞれの考えを広げ深められるように工夫する。 3 地域の教育力を積極的に活用できる方法を模索、実践し、生徒の学びの幅を広げる。 4 授業に向かう姿勢・環境づくり(授業内での生徒指導充実)を図る。		
⑥具体的な取り組み状況	1 シラバス・年間指導計画及び評価計画表を元に各教科担当が授業を進める他、授業の進め方や内容の見直しを行いながら授業改善を行い、学力定着を進めている。 2 第1回オープン授業デーを実施し、実施後の意見・感想を整理するなど授業改善への取り組みを進めている。 3 ICTを活用し、データを共有・まとめ・発表をするようなコミュニケーションツール活用を行い授業改善を進めている。 4 各学年で朝学習・読書を実施している他、長期休業中の課題、補習を進めており学力向上や学習習慣の確立に取り組んでいる。		8月までの達成状況や評価
⑦達成状況	1 第1回オープン授業デーでは、自校の職員をはじめ、中学校の先生方も参観され、建設的な意見を多数いただくことができた。意見をもとに授業改善に繋げている。 2 朝学習・読書・長期休業課題・補習は各学年で計画的に実施され、学習習慣の定着取組はできている。		
⑧自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 1 授業改善は行われているが、「思考力・判断力・表現力」を育むためにさらなる改善が必要なため。 2 学習習慣の定着はできつつあるが、生徒一人一人の思考力向上に課題があるため。	
自己評価に基づいた改善策	1 今後も振り返りや授業内評価について考察・工夫を重ね、授業改善を特に進めていく。 2 授業アンケート結果やオープン授業デーの課題から、その都度教科内で話し合い、改善を進めていく。		
⑨具体的な取り組み状況	1 第1回授業アンケート、オープン授業デー実施後の意見をもとに、先生方が授業改善を行った。 2 ICTを活用し、協働的な授業を行い、学ぶ意欲を高めることができた。 3 各学年で朝学習・読書を実施している他、1年部では審査1週間前に放課後補習を行いなど基礎学力向上に取り組んだ。		年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	・第2回オープン授業デーでも、参観された中学校の先生方から、第1回目と同様に、よい評価をいただいた。 ・ICTの活用、授業改善については継続して行っており、先生方の創意工夫が見られ生徒の学ぶ意欲の向上に結び付いた。		
⑪自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) ・オープン授業デーや授業アンケートの結果を踏まえて、先生方が授業改善を行った。 ・基礎学力の定着と授業改善は図られているが、思考力の育成までには、まだ至っていないところがある。	教頭記入
⑫学校関係者評価と意見	(評価) <b>B</b>	(意見) 生徒の学力や現状を把握し、基礎的学習を重視する指導方針を評価する。今後もICTの活用実践、目標達成に向けた創意工夫や研修、資格取得への挑戦、五高ベーシックの内容の充実、協働的な深い学びを継続、発展してほしい。	
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	1. 基礎基本の習得、グループ学習などの授業を通した思考力育成の授業改善を図る。 2. コース制の特徴を踏まえた資格取得の奨励を行う。 3. 五高ベーシックの内容の改善に取り組む。		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	生徒の健全な成長を喚起する。		前年度3月作成
③現 状	1 問題行動の件数は落ち着いた状態で推移しており、指導事案はなかった。 2 問題行動の指導事案に該当しないが、トラブルは複数ある。 3 「いじめ」も数件確認された。また、「いじめに近いトラブル」などの人間関係に係るトラブルが多い。 4 SNSが関係する問題やSNSで問題が発覚するものが多い。		
④具体的な目標	1 自己有用感や達成感、道徳心を涵養するための積極的な働きかけを行う。 2 生徒の言動等の情報把握に努め、問題行動の未然防止につなげる。 3 問題行動やいじめに対して、迅速に組織的な対応を図る。 4 基本的なマナーと正しい整容を身に付けさせる。特に、立ち止まっの挨拶を励行する。		
⑤目標達成のための方策	1 クラス担任や副担任、学年主任や生徒指導部はもちろん、全職員で適宜生徒指導につながるような働きかけを行う（授業、HR、集会、学校行事、儀式、部活動など）。また、外部団体（警察など）の力を積極的に活用していく。 2 普段の生活における言動、担任による面談、学校生活アンケートの複数回実施などで情報把握に努め、必要な情報を共有する。特に、大型連休や長期休業明けの様子や変化を注意深く見ていく。また、全職員で適宜必要な声かけを行う。 3 報告・連絡・相談を密に行う。特に初期対応を大切にする。また、相談しやすい雰囲気づくりに努め、教員同士のコミュニケーションを円滑に行う。 4 「こころ 姿 振る舞い さわやか高校生運動」や「立ち止まっの挨拶」の重要性や必要性を理解させ、指導する。		
⑥具体的な取り組み状況	1 各教育活動の各種場面を活用し、生徒指導に関わる働きかけを行っている。また、五城目警察署のご協力により、交通安全、薬物乱用防止について考える機会を得ることができた。 2 担任は生徒をよく観察することの他、4月、夏季休業明けに面談を行った。また、7月に第1回の学校生活アンケートを実施し、情報把握と情報の共有を行った。 3 各学年、朝の打ち合わせを必ず行い連絡を密にしている。 4 校内外での活動を挨拶指導やマナー指導の機会と捉えて、積極的に取り組んでいる。		8月までの達成状況や評価
⑦達成状況	1 行事や集会、HR活動などで自己有用感や達成感、道徳心を涵養するための働きかけを適宜行うことができている。 2 生徒の言動等の変化や情報把握に努め、問題行動の未然防止や早期発見、早期解決ができている。 3 いじめ事案に対して、迅速に組織的な対応を図ることができている。（いじめ事案、問題行動が数件発生している。） 4 立ち止まっの挨拶については、概ね実践できている。基本的なマナーと正しい整容を身に付けさせる指導ができている。 5 ほぼすべての生徒は注意や指導を行うと素直に正すことができている。		
⑧自己評価	（評価）  <b>B</b>	（根拠） 1 学校行事を通して、多くの生徒が自己有用感や達成感を得ている姿が見えた。 2 必要な情報共有、報告や相談が概ねできている。問題の未然防止に努めており、大きな問題は発生していない。 3 各事案（いじめ関係）に対して組織的に対応できており、早期の解決に繋がっていると思われる。 4 整容や挨拶、立ち振る舞いなどの意識向上につながる指導を、場面を捉え適宜行っている。	
自己評価に基づいた改善策	・学校生活アンケート（2月）の実施、気になる生徒への声かけなどで状況把握に努め、必要な情報を全職員で共有する。 ・引き続き、いじめや問題行動の未然防止に努める。 ・問題に対しては、適切な初期対応、組織的な対応を行い、早期発見、早期解決に取り組む。		
⑨具体的な取り組み状況	1 各教育活動の各種場面を活用し、生徒指導に関わる働きかけを行っている。 2 12月に第2回学校生活アンケートを実施し、関係職員（いじめ対策検討委員会）による情報把握と情報の共有を行った。 3 各学年、朝の打ち合わせを必ず行い連絡を密にしている。 4 校内外での活動を挨拶指導やマナー指導の機会と捉えて、積極的に取り組んでいる。		年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	1 行事や集会、HR活動などで自己有用感や達成感、道徳心を涵養するための働きかけを適宜行うことができている。 2 生徒の言動等の変化や情報把握に努め、問題行動の未然防止や早期発見、早期解決ができている。 3 いじめ事案に対して、迅速に組織的な対応を図ることができている。（いじめ事案と疑わしい案件が散見された。） 4 立ち止まっの挨拶については、概ね実践できている。基本的なマナーと正しい整容を身に付けさせる指導ができている。 5 ほぼすべての生徒は注意や指導を行うと素直に正すことができている。		
⑪自己評価	（評価）  <b>A</b>	（根拠） 1 学校行事を通して、多くの生徒が自己有用感や達成感を得ている姿が見えた。 2 必要な情報共有、報告や相談が概ねできている。問題の未然防止に努めており、大きな問題は発生していない。 3 基本的なマナーと正しい整容を身に付けさせる指導が概ね達成されている。	
⑫学校関係者評価と意見	（評価）  <b>A</b>	（意見） 立ち止まっの挨拶など細かな指導、SNSに関する適切な指導が行われ、問題を未然防止している。地域における生徒の活動などは外部でも評価が高い。今後も生徒の自己肯定感を育成する指導を行ってほしい。	教頭記入
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	「学校評価アンケート（保護者）」の結果より、「整容やマナーについて学校の指導が適切か」という問いに対し、「あまり思わない」「全く思わない」との回答が前年度を10パーセント程度上回っている。自由記述の欄にも「整容指導の在り方、見直し」を求める意見が散見されることから、次年度は整容の基準、点検方法の改善を検討したい。		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

<p>②重点目標</p>	<p>1 3年間の系統的な進路指導を推進し、早い段階からの進路意識の高揚を図る。 2 きめ細やかな進路指導を行うことにより、3年生全員の進路達成を目指す。 3 教養・マナーを定着させるとともに、進学を希望する生徒の学力を保障し、進路変更も想定した進路指導を行う。 4 教員の資質向上のために外部団体による研修を紹介したり、研修を企画する。</p>		<p>前年度3月作成</p>
<p>③現 状</p>	<p>就職に関しては第一志望が叶わなかった生徒が多かった。企業の求める人材と合致しない、面接で自分を表現しきれなかったなどが原因と思われる。気持ちを切り替えさせ、就職活動を行った結果、卒業までにはほぼ全員が内定を得ることができた。進学に関しては、推薦で進学を目指していた生徒が不合格になり、一般入試で進学が決定した例が数件あった。一般受験の可能性も含めて進学希望者の学力を底上げすることが大切だ。公務員も早い段階から受験対策を行う必要がある。 進路指導に当たり、担当となる生徒の進路によって職員の負担が重いことがある。</p>		
<p>④具体的な目標</p>	<p>1 学年部との連携を密にし、3年間を見通した進路指導計画を実施する。 2 進路検討会や指導担当者の割当など早めに行い、余裕をもって活動する。 3 生徒の進路に対して学校全体としての共通認識を深め、指導を強化する。</p>		
<p>⑤目標達成のための方策</p>	<p>1 3年間を見通した進路指導計画の立案、運営を実施する。 2 早期の職場定着就職支援員や進路担当との面談を通して生徒の進路希望の把握に努め、書類作成や面接指導に生かす。 3 学年部を中心として、特定の教員に負担がかからないよう指導計画を立てる。 4 様々な研修に関して、先生方へ素早く伝える。</p>		
<p>⑥具体的な取り組み状況</p>	<p>・進路調査を実施し、生徒の進路希望先を確認してから、学年毎に進路意識を向上させるような指導を行った。 ・学力保証の観点より到達度テストを実施した。</p>		<p>8月までの達成状況や評価</p>
<p>⑦達成状況</p>	<p>・職場定着就職支援員と協力し、各学年とも順調に進路行事を実施した。3年生に関して、今年度より履歴書が手書きでなくてもよい企業がほとんどだったので、面接指導により力を入れることができていた。2年生のインターンシップも無事に終わることができた。 ・校務支援システムを活用し、研修案内を職員へ伝えている。</p>		
<p>⑧自己評価</p>	<p>(評価) <b>B</b></p>	<p>(根拠) ・各学年とも生徒への指導が予定通り行われている。 ・昨年のように研修部独自の企画が立案できていない。</p>	
<p>自己評価に基づいた改善策</p>	<p>到達度テストの結果を進路活動に活用することで生徒の学力向上を図り、将来の進路選択の幅を広げる。また分掌業務の見直しをこまめに行い、特定の教員へ仕事が集中することを避ける。</p>		
<p>⑨具体的な取り組み状況</p>	<p>・進路ガイダンスやふるさと企業紹介などさまざまな進路行事を企画・実施し、生徒の進路意識を高めることができた。</p>		<p>年度末までの達成状況や評価</p>
<p>⑩達成状況</p>	<p>・3年生全員の進路が決定するなど、重点目標が達成できた。 ・本校独自の研修は企画できなかったものの、オープン授業デーなど行い授業力向上を図ることができた</p>		
<p>⑪自己評価</p>	<p>(評価) <b>B</b></p>	<p>(根拠) 目標は達成できたかと思う。今年度の新しい取り組みとして、スタディサプリを導入したが十分に生かし切れていない。学力向上のために進路指導部が中心となってスタディサプリの有効活用を進めていく必要があった。また、キャリア教育の観点からも総合的な探究の時間についてさらに検討する必要がある。</p>	
<p>⑫学校関係者評価と意見</p>	<p>(評価) <b>B</b></p>	<p>(意見) 目標は達成されており、取組が評価できる。今後はデジタル教材とリアルな授業との相乗効果を期待している。また、キャリア教育(ふるさと教育)、総合的な探究の時間は、学力向上や社会に出ていく生徒にとって鍵となる重要な学習である。自治体や企業との更なる情報交換や連携に期待する。</p>	<p>教頭記入</p>
<p>⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策</p>	<p>・多様な進路に対応するためスタディサプリを活用した学力定着を図る。そのために進路指導部が学年部に働きかける。 ・地元企業の良さを知って欲しいという提案があったので、探究活動などを通じて地域で活躍する企業を生徒・職員に知ってもらう機会をつくる。</p>		<p>主任記入</p>

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

①評価領域	特別活動部
-------	-------

②重点目標	特別活動行事への参加を通して、個性の伸長を図り、本校および地域社会の一員としてよりよい在り方生き方を求めて活動する実践的な態度を養う。		前年度3月作成
③現 状	1 生徒会については、各委員会が協力し、全校生徒による自治的、組織的な活動を行っている。 2 学校行事は職員、PTA、地域の協力を得て実施してきたが、現行での実施が難しくなってきた。 3 新入生の部活動加入率が下がり、部員不足に苦しんでいる。今後休部、廃部が予想される。		
④具体的な目標	1 生徒会については、委員会の枠を超えて全校生徒で行事等の円滑な運営に当たる。 2 学校行事も部活動も、学校規模に見合った活動に見直す。		
⑤目標達成のための方策	1 委員会の業務内容を見直し計画立案する。 2 地域にある中学校と連携した活動など、地域とのつながりを大切に活動を行う。 3 全戸配布のフォトニュースや新聞記事で、特別活動の様子を伝える。		
⑥具体的な取り組み状況	1 二つの委員会を兼ね併せて計画、実施している。 2 馬場目川クリーンアップ、森山登山、学校祭を予定通り行った。 3 部活動は個人戦や他校と合同チームを組んで大会に参加している。		8月までの達成状況や評価
⑦達成状況	1 それぞれの委員会で活動時期や実施計画を見直し滞りなく実施している。 2 五高祭は内容の精選や時間の見直しをし、生徒会執行部を中心に協力して生徒、来客者に喜んでもらえるものができた。 3 PTAや地域の方の協力で無事登山を実施することができた。また、馬場目川クリーンアップは初めて五城目第一中学校3年生と合同で行った。 4 部活動は少人数ながらモチベーションを維持できるよう顧問の先生方が丁寧に指導し大会等参加している。		
⑧自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 学校行事等は生徒会執行部を中心に各委員会との協力で成果を上げることができた。特に五高祭は三年生がリーダーシップを発揮し盛り上げてくれ外部からも好評であった。しかし各行事の反省が十分になされないまま次の行事の準備に入っている状況なので、しっかり検証していきたい。	
自己評価に基づいた改善策	地域の人やPTAなどの支援を受け様々な活動を通して達成感を得られる生徒が多かったが、さらに生徒数が減少することを見越して早めに次年度に向けて行事等の検討をする。		
⑨具体的な取り組み状況	1 クラス対抗を実施した。 2 生徒会役員改選を行った。 3 各部とも部員数が減少していく中で、練習内容を工夫し精神力強化に努めている。		
⑩達成状況	1 クラス対抗は、種目やチーム編成等について部内で検討し、安全で意義のある行事にするよう考慮した。 2 学年部や選挙管理委員の担当者のおかげで問題なく改選できた。 3 生徒数の減少に伴い部活動の加入率も低くなって休部、廃部が予想される。活気のある学校にするために少人数でもできる行事や部活動の見直しが急務である。		年度末までの達成状況や評価
⑪自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) すべての活動において、前年度踏襲というわけにはいなくなってきており、行事ごとに内容を見直ししながら実施してきた。多少窮屈な活動もあったと思うが、生徒たちはやれる活動の中で喜びや鍛錬する経験が得られたと思う。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) <b>A</b>	生徒数減少、部活動の縮小はあるが、各種行事や地域貢献活動等に積極的に取り組んでいることが評価できる。これからも見直し等を進めながら生徒の良質な活動の場を提供し、活動の広報も行ってほしい。	
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特活行事は学校規模や生徒の実態に見合った内容に修正しながら進める。</li> <li>・地域の学校という意識をもち、地域とのつながりを大切に活動が続ける。</li> <li>・特別活動の事前PRや広報活動を積極的に行う。</li> </ul>		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

<p>②重点目標</p>	<p>1 主体的に心身の保持増進に努めようとする生徒を育成する。 2 生徒に寄り添い、心の成長を支える教育相談支援の整備・充実を図る。 3 特別支援教育体制の整備・充実を図る。 4 図書室の利用促進と読書活動を推進する。</p>	<p>前年度3月作成</p>
<p>③現 状</p>	<p>1 健康管理や環境衛生に対する意識が低い生徒に、支援のあり方を工夫する必要がある。 2 学校生活上の困難をかかえ、問題の解決や適応がうまくできない生徒の割合が増加し、家庭の状況が多様化している。 3 特別な支援を要する生徒やその境界にある生徒に対する合理的配慮や卒業後を見据えた指導が必要である。 4 図書室の蔵書数は増加しているが、図書の貸出数や読書をする生徒数は減少している。</p>	
<p>④具体的な目標</p>	<p>1 生徒に必要な情報を提供し、健康管理とともに環境衛生に対する意識を高める。 2 生徒の抱える諸問題の把握と傾聴に努め、職員が協働して組織的な支援を行う。 3 様々な配慮や支援を要する生徒に対して、外部機関との連携・協力を図りながら、実態に合った具体的な配慮や支援を職員全体で共有しながら行う。 4 読解力の育成を目的として図書室の図書の紹介に努め、貸出数や読書数の増加を図る。</p>	
<p>⑤目標達成のための方策</p>	<p>1 検診や健康観察によって生徒の心身の状態を把握し、職員間で情報共有を図る。ほけんだよりや担任・顧問等の支援によって、健康管理に対する意識を高める。 2 年間複数回の個人面談週間を設定する等教育相談を充実するほか、多様化している生徒の自己理解を深める面談ができるように職員の研修機会を設定する。 3 中高連絡会議を始め、中学校との連携を一層充実させるとともに、特別支援教育に関する専門的知見を備えた外部機関とも連携し、将来を見据えた支援を行う。 4 生徒への読書アンケートを実施するとともに、教科と連携して図書紹介の機会を増やす。</p>	
<p>⑥具体的な取り組み状況</p>	<p>1 各検診や健康観察による情報共有と、ほけんだよりを通じて生徒の意識の啓発に取り組んだ。 2 4月に個人面談週間を、7、8月に保護者・3者面談を実施して、信頼関係の構築に努めた。 3 1年生のクラス編成に中高連絡会と事前調査の情報を生かした。高等学校特別支援チームによって、5月15日に授業参観とケース会議を実施した。 4 学校予算で図書34冊を購入した。生徒が興味をもつと思われる図書や教員が必要とする書籍、文学賞受賞作品などを揃え、生徒の読書推進に努めた。</p>	
<p>⑦達成状況</p>	<p>1 近年と比較して、保健室来室状況は全体的に落ち着いてきている。 2 個人面談や保護者面談等の実施と、各種相談窓口の情報提供をこまめに行った。 3 中学校からの事前の情報提供もあり、生徒に個別の配慮が前もってできている。 4 全校で朝学習に読書に取り組んでいることや生徒が興味をもつ図書の購入に努めていることなど読書活動の一層の推進に努めてきた。</p>	
<p>⑧自己評価</p>	<p>(根拠) B 健康診断や検診、健康観察、ほけんだより等を通じて、生徒の健康保持増進についての生徒の意識を高めた。面談による支援や情報共有について、学年や外部機関との有機的に連携してきた。引き続き、生徒への対応を組織的に取り組む必要がある。図書では、新刊の充実や読書の機会の設定等、読書に対する啓蒙活動に取り組んだ。</p>	
<p>自己評価に基づいた改善策</p>	<p>配慮が必要な生徒について、外部機関などと連携を組織的に図り、本人・保護者に対して、授業や学校生活等、丁寧な意思確認をするとともに、適切な配慮の共通理解を得る。図書では生徒に新刊について案内をし、読書意欲の喚起に努める。</p>	
<p>⑨具体的な取り組み状況</p>	<p>1 健康診断や健康観察、ほけんだより等を通じて生徒の健康管理の向上を図った。熱中症対策として、黒球式熱中症計測器を設置した。 2 年2回の定期的な面談週間や必要に応じて個別面談を各担任が実施した。人間関係のトラブルや悩みのある生徒に学年部を中心に対応した。スクールカウンセラーや高等学校特別支援チームと連携して、生徒の状況把握と個別対応を行った。 3 ケース会議のやり方から、多様な視点による生徒の共通理解を学んだ。配慮を要する生徒とその保護者への対応をきめ細かく行っているが、本人と保護者の将来に対する方向性が見出せない状況である。 4 学校予算で図書134冊を購入した。生徒が興味をもつと思われる図書や教員が必要とする書籍、文学賞受賞作品などを揃えた。</p>	<p>年度末までの達成状況や評価</p>
<p>⑩達成状況</p>	<p>1 保健室利用状況からは、健康管理に対する生徒の意識は高まってきた。一方、人間関係のトラブルの割合が高まった。 2 SCと養護教諭の連携が円滑で、生徒に寄り添い、よく機能している。教員以外との相談は、本人を落ち着かせているようだ。 3 ケース会議のやり方から、多様な視点による生徒の共通理解を学んだ。配慮を要する生徒とその保護者への対応をきめ細かく行っているが、本人と保護者の将来に対する方向性が見出せない状況である。 4 読書を朝学習に取り入れていることや、生徒が興味をもつ図書の購入に努めていることなど読書活動の一層の推進に努めてきた。</p>	
<p>⑪自己評価</p>	<p>(評価) (根拠) B 生徒数の減少により、個々の生徒の変化やトラブルに学年部を中心に手厚く対応できる。反面、狭い人間関係の中でのトラブルが起きやすい状況である。また、本人や家庭に問題を抱えて不登校傾向にある場合、本人と保護者が将来に対する方向性を見出せず、外部機関と連携を図ってもその対応に苦慮している。</p>	
<p>⑫学校関係者評価と意見</p>	<p>(評価) (意見) A 様々な事情を抱える生徒に対してチームで対応している。今後もこの取組を継続し、学校だけの対応が困難な場合は、行政等と協力することも検討してほしい。生徒が読みたい図書の購入、読書の指導、朝学習への導入などの取組は今後も継続してほしい。</p>	<p>教頭記入</p>
<p>⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策</p>	<p>入学前後や学期の始めに面談週間・面談旬間を設け、生徒の変化に気付けるよう取り組み、必要に応じて行政等とも連携していく。それには、保護者との意思の疎通が重要であるので、本人や保護者の意向を傾聴できる研修を、外部講師に依頼するよう企画する。図書の取組も継続していく。</p>	<p>主任記入</p>

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 基本的な生活習慣の確立をする。 2 コミュニケーション能力の育成をする。 3 早期に進路目標を設定できるようにする。		前年度3月作成
③現状	学力に不安を抱える生徒が多く存在する。全体指導では指導が行き届かない生徒が多い。そのため、学年全体での指導を考える必要がある。		
④具体的な目標	1 年度内皆勤、部活動への加入を奨励する。 2 担任・学年主任による年3回の個人面談の実施により、生徒の実態を把握する。 3 早期の進路目標の設定のために、総合的な探究の時間・LHRを活用する。		
⑤目標達成のための方策	1 学習習慣の確立のために朝学習を充実させる。(遅刻防止にもつなげる。) 2 生徒の家庭環境を把握し、進路目標につなげるために面談を年3回実施する。 3 総合的な探究の時間・LHRを活用して、自己実現につなげる。特に総合的な探究の時間の内容を吟味する。		
⑥具体的な取り組み状況	1 朝学習を実施している。 2 担任・副担任による生徒との個人面談、夏休みに保護者面談を実施した。 3 校外学習や進路講話、進路希望調査を実施した。		
⑦達成状況	1 朝学習に遅刻する生徒はいない。新入生の部活動加入率は57.1%と昨年度とほぼ同率であった。 2 生徒や保護者との面談の内容を学年全体で共有し、生徒への声かけなどに役立てている。 3 総合的な探究の時間の探究テーマの決定に向け準備を進めている。		8月までの達成状況や評価
⑧自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 原級留置の生徒を除いて、ほぼ欠課・欠席がなく、大きなトラブルもなかった。二学期以後も、この調子で早めのコース選択および進路意識の醸成に努めていきたい。	
自己評価に基づいた改善策	1 教育活動全般において指導を継続する。 2 進路指導やコース選択などについて個人面談を行う。保護者とも適宜連絡を取り合う。 3 郷土五城目町について探究活動を進め、職場見学や進路ガイダンスを通して進路意識を高める。		
⑨具体的な取り組み状況	1 学習習慣の確立のための朝学習および定期考査前には毎回学習会を実施した。 2 コース選択やインターンシップ先の希望確認など、必要に応じて保護者の意見を確認した。面談や家庭との連絡も密に行った。 3 郷土学習やキイチゴ摘み取り体験、「あきたの企業魅力発見ラーニング」での職場見学や経営者講話、および職業理解ガイダンスなどを通して、仕事に臨む姿勢や心構え、必要な資格について学んだ。		年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	1 全体的に欠課・欠席は少なく遅刻をする生徒もいないが、年度内皆勤は2名と少なくなり、部活動加入率は6割程度にとどまっている。 2 生徒や保護者との面談は必要に応じて行い、生徒や家庭状況の理解が進んだ。 3 郷土の理解を深めることができた。職場見学や経営者講話、職業理解ガイダンスなどを通して、進路意識を高めることができた。		
⑪自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 1 基本的な生活習慣の確立はできているが、学習習慣の確立までには至らず、定期考査での欠点解消には至らなかった。 2 学年で情報を共有し、生徒の細かい変化を見逃さず、保護者への連絡も適宜行っている。 3 どの生徒も就職・進学の方性がほぼ固まった。今後は各自の進路希望に基づいた具体的な情報収集が必要である。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) <b>B</b>	(意見) 生活、学習の習慣付け、適時適切な指導が行われ、目標は達成できている。学習アンケートの自己評価が低いことから、今後は地域との「五城目高校の特色となる」活動などを継続しながら、コミュニケーション力などの指導を継続してほしい。	教頭記入
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	1 学習習慣の確立を目指し、指導を継続する。 2 インターンシップを通して、具体的な職業観を養う。 3 五城目町に関する探究活動を継続することで地域との結び付きを強め、コミュニケーション能力の伸長を図る。		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 中堅学年としての自覚を持ち、責任と節度ある行動や生活を心がける。 2 学習習慣を身に付け、学力向上を図る。 3 職業観を養い、具体的な進路目標を設定する。	前年度3月作成
③現 状	1 遅刻する生徒はいないが年度内皆勤は3名である。 2 学習習慣の確立、基礎学力の定着ができていない生徒が多く見られる。 3 職場見学や経営者講話、職業ガイダンスなどを通して、学年全体で進路に関する知識や意識は高まっているが、具体的な進路先についてはまだ検討中の生徒が多数である。	
④具体的な目標	1 基本的な生活習慣の確立、挨拶、時間および期限厳守の姿勢を身に付けさせる。 2 学習習慣を確立させ、基礎学力を身に付けさせる。 3 自己の進路目標を明確にさせる。	
⑤目標達成のための方策	1 朝の校門指導や学年集会、クラスでの指導をきめ細かに行う。 2 進路指導、学年集会、HRでの連絡、担任による面談の機会を有効に活用する。 3 個人面談や保護者と連絡を取り合う等して生徒の実態を捉え、一人一人の生徒への支援を継続していく。	
⑥具体的な取り組み状況	1 朝の校門指導や朝学習で生徒の様子を観察し声をかけた。 学年集会では基本的な生活習慣や進路について指導を行った。 2 個人面談週間や学年PTAで生徒、保護者面談を実施した。 面談などで進路について考える機会が多くなっている。	
⑦達成状況	1 多くの生徒が落ち着いて学校生活を送っているが、遅刻や欠課や欠席が多い生徒がいる。 朝学習に取り組む姿勢には個人差がある。 2 生徒の進路希望や家庭の状況、保護者の意向などの把握につとめている。 インターンシップは働くことや進路について大きな転機になった。	
⑧自己評価	(評価) <b>B</b> (根拠) 中堅学年としての自覚をもち、責任と節度ある学校生活を送れている生徒がほとんどである。 休みがちな生徒については保護者と連絡を取り合いながら粘り強く指導を継続していく必要がある。 オープンキャンパスに参加するなど進路意識に変化が見られた。	
自己評価に基づいた改善策	1 朝の校門指導・教室巡視、学年集会での目標確認、SHR・LHRでの指導を継続する。 2 キャリアガイダンスやインターンシップの事後指導を行い、明確な進路目標決定に結びつける。	
⑨具体的な取り組み状況	1 朝の校門指導・教室巡視、学年集会での目標確認、SHR・LHRでの指導を継続した。 2 修学旅行後から進路活動の時間を多く設定した。ふるさと企業紹介講座や秋田地域企業ガイダンス等の外部組織の活動を通し、進路目標の明確化を促した。	年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	1 挨拶や時間厳守、整容、授業規律などの指導を学年団で共通理解し、継続的に取り組んだ結果、多くの生徒において学校生活の安定が見られたが、意識の差も残った。継続的な指導と個別支援の充実が課題である。 2 進路指導を通して将来について考える機会を提供することはできたが、目標が具体化できていない生徒も見られた。個別対応の充実が課題である。	
⑪自己評価	(評価) <b>B</b> (根拠) 挨拶や生活態度の改善が見られる生徒が増えた一方で、学校を休む生徒が一定数おり、生活リズムの定着には課題が残った。また、進路について考える時間は確保できたが、進路目標の具体化や主体性の育成については十分といえず、より丁寧な個別対応が今後の課題である。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) <b>B</b> (意見) 学習規律ができており、総合的な学習のプレゼンテーションなどは素晴らしかった。今後はインターンシップ等の校外活動なども含め、進路の明確な動機付けを核に生徒に目標をもたせ、生活リズムを整えて3年生に向かってほしい。	教頭記入
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	・興味がある分野や職業だけでなく、働き方、職場環境を含めて具体化する等、再度自己分析をする。 ・進路指導部と連携を深め情報収集を徹底する。 ・社会人生活を想定した生活時間に修正する。	主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 進路目標の達成 2 社会人として必要な力の育成		前年度3月作成
③現 状	1 進学希望者には志望校の受験システムを把握させ、準備に取り組ませながら、実現可能な進路目標を早期に確立する必要がある。就職希望者には希望する職種に対する適性や、企業側が求める内容を十分に理解させ、ミスマッチが生じないように配慮する必要がある。 2 生活習慣の確立、一般常識の習得が必要と思われる生徒が存在する。		
④具体的な目標	1 生徒の適性や特性に応じた進路目標の達成 2 社会人として必要な教養の習得、生活習慣の確立、職業観の育成		
⑤目標達成のための方策	1 進学希望者に進路学習、面談を通して受験校の事前調査および受験手続について早期に取り組ませる。就職希望者に対して面談の時間を十分に確保し、適性に見合った就職先を見付けるための支援を行う。 2 言葉遣いや挨拶、整容、時間の遵守を指導し、進路学習(LHR・ST)の時間での一般常識の習得を意識させる。キャリアアップ集会等の進路行事を通して職業観の育成を進める。		
⑥具体的な取り組み状況	1 担任との面談で本人および保護者の意向を確認しながら、応募前職場見学やオープンキャンパスへの積極的な参加を促し、就職支援員の助言を得て進路目標を絞り込んできた。 2 進路行事の振り返りや志望理由書の作成を通して、生徒なりに「なぜこの職業をめざすのか」を言語化できるよう取り組ませた。		
⑦達成状況	1 進学・就職希望者とも、進路目標を確立しており、面接練習や小論文対策、出願手続き等必要な準備を進めている。 2 面接練習を進めても期限・時間を守れない生徒、言葉遣い・整容が不十分な生徒がいる。		8月までの達成状況や評価
⑧自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 1 就職・進学とも試験開始前のため、現時点では評価できない。 2 ⑦のような状況であり達成の途上にある。	
自己評価に基づいた改善策	1 引き続き進路目標の達成に向け取り組み、必要に応じて再検討を行う。 2 面接練習や諸届の提出を通して指導を継続する。		
⑨具体的な取り組み状況	1 第一志望から内定を得られなかった生徒とは面談を重ねて新たな目標を設定し、職場見学や調査書作成に向かわせた。担任を中心に面接練習や個別指導を行ったことで、二科目での内定獲得につながった。 2 内定後の礼状作成や合格体験記の指導。		年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	1 就職は全員が内定を獲得し、進学も共通テスト受験予定の1名以外は全員が志望校に合格した。 2 内定・合格後、一部の生徒に成績の低下や提出物の遅れがみられている。		
⑪自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 進路目標は⑩-1のような達成状況だが、社会人として必要な力については、⑩-2のようにまだ不十分であるため。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) <b>A</b>	進路志望の達成に向けて全職員が熱意をもって取り組み、目標を達成する成果が出ている。社会人としての自覚と基礎力を身に付け、就職後もスキルアップを目指すような生徒を育てほしい。	教頭記入
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	・進路目標達成後の指導、社会人として必要な力の育成に課題が残る。 ・卒業後の進路に関わる資格の取得を推進する。 ・2学期後半の総合的な探究の時間で地域貢献につながる活動を取り入れる。		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。